

第9回 IT農業ネットワーク シンポジウムとアグリフェア

3月2日(土)に第9回 IT農業ネットワークシンポジウムとアグリフェアが開催されました。今回は会場を豊橋サイエンスコアに移し、修了生・受講生同士だけでなく近隣地域の方たちとも交流できるような開かれた形で実施され、102名の来場がありました。

IT農業ネットワークシンポジウム「スマート農業!これからの展望」では、豊橋技術科学大学特任教授の高山弘太郎氏による基調講演「高精度植物生体情報による栽培管理の高度化」が行われ、その後、下村堅二氏(JA西三河きゅうり部会改革プロジェクトリーダー)から「JA西三河きゅうり部会のICTを活用した取組みと今後の展望」、山村友宏氏(株サイエンス・クリエイト)から「ダイネーター」から「豊橋市が進めるスマート農業への支援」と題して講演が行われました。



IT農業ネットワークシンポジウムの様子

また、アグリフェアでは、ネットワーク会員の他、支援企業も含めた34ブースの展示・販売が行われ、青果物の他、青果物加工品、水産物加工品、ドローンの展示など多岐に渡る内容でした。審査の結果、優秀賞として、鈴木和代氏・鈴木雅啓氏(IT食農先導士(土地利用型)IT農業コース)3期生、10種の西洋野菜)、村上和利氏(植物工場マネージャー2期生、6次産業化4期生)、ミニトマト・カリーノケール・ワサビナ・青パパイヤ等)、富田雅則氏(植物工場マネージャー5期生、6次産業化2期生)、イチゴ・イチゴジャム等の3組が受賞されました。(文責:西村香織)

課題研究発表会を実施 植物工場マネージャー第6期生・ IT食農先導士(土地利用型)第 2期生

去る2月24日(日)、豊橋技術科学大学F2棟903教室において平成30年度最先端植物工場マネージャー育成プログラム・IT食農先導士養成プログラムの(最先端土地利用型IT農業コース)の課題研究発表会が実施されました。受講生が関わる身近な研究課題を設定し、昨年4月からスタートした一年間の成果を13名の受講生が発表しました。研究内容、スライドの構成、発表方法等について先端農業・バイオリサーチセンターの教員3名が審査した結果、植物工場マネージャー育成プログラムから村松正登氏の研究課題「低カリウムかつ低硝酸レタスの水耕栽培法の確立」が、IT食農先導士養成プロ



課題研究発表会の様子

グラムからは松永好弘氏の研究課題「豊橋におけるキャベツの栽培方法と収量の関係」が課題研究優秀賞に選ばれました。(文責:熊崎 忠)

植物工場マネージャー7期生、IT 食農先導士(土地利用型)3期生、 第2回先端施設研修・先端IT農 業研修

3月16日(土)に植物工場マネージャー7期生9名とIT食農先導士(土地利用型)3期生5名が参加して、第2回先端施設研修・先端IT農業研修が実施されました。今回の視察先は、(有)こだわり農場 鈴木(米、野菜)、シイタケ栽培、豊

川市、IT食農先導士1期生、鈴木晋示氏）、水谷農園（イチゴ栽培、豊橋市、植物工場マネージャー4期生、水谷一江氏）、トヨタネ㈱研究農場でした。水谷農園では、イチゴの可動式「ぶらんこベンチ」等を見学し、こだわり農場鈴木では、トヨタ自動車の豊作計画を導入した米の経営管理方法やシイタケ栽培のお話を聞きました。トヨタネ研究農場では、統合環境制御システムやミニトマトの品種比較栽培やキュウリの高設ベンチ栽培等のお話を聞くことができました。受講生の方々は、可能な時間いっぱい、熱心に質問や意見交換を行っていました。（文責：山内高弘）



トヨタネ(株)研究農場・キュウリの高設ベンチ栽培の視察風景

季節の花 ハナシヨウブ

ハナシヨウブ（学名：*Iris ensata* var. *ensata*）は、アヤメ科、アヤメ属の花菖蒲は、日本原産の野生種、ノ

ハナシヨウブから改良されたもので、江戸中期に品種改良が始まり、非常にたくさんのお花が作り出されています。梅雨の風物詩として江戸時代から愛されてきた花です。青や紫の花が知られています。5000を超える品種があると言われてます。また、カキツバタが水辺に、ハナシヨウブも夏に水を張ったところで咲いていることが多いので「水生植物」と思われがちですが、普通の土に育ち、開花時期以外は水をやりすぎると普通に根腐れします。ただし、ハナシヨウブはアヤメよりも土が湿っている状態を好む植物ですがあくまで普通の土に育つ植物です。



ハナシヨウブは、苗から育てる

の一般的なです。植え付けは、3〜7月か、9〜11月が適しています。鉢植えは、苗よりも1回り大きな鉢に植えます。地植えは、日当たりのよい場所を選んで土を耕しておき、植え付けます。いずれの場合も、根が隠れる程度に浅く植えるのがコツです。植え付け用土は、水はけと水もちのバランスが良い弱酸性の土を好みます。鉢植えは、赤玉土（小粒）8・ピートモス2の割合で混ぜたものか、市販の草花用培養土を利用します。地植えは、水はけが良すぎる時、庭の土に完熟堆肥やピートモスを混ぜると水持ちが良くなります。水やりは、常に土が湿っているも根腐れを起こしますが、極端に乾燥すると株が弱ってしまいます。鉢植えは、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えてください。地植えは、基本的に水やりの必要はありません。（文責：山内高弘）

旬の食べ物 アスパラガス

学名：*Asparagus officinalis* L.
英名：*Asparagus*

アスパラガスは、地中海沿岸からロシア南部を原産とする多年生の単子葉植物です。分類は分類体系によって異なり、ユリ科アスパラガス属またはキジカクシ科クサスギカズラ属に分類されます。アスパラガスはビタミンA・B1・B2・C・Eや葉酸などを含む栄養価の優れた野菜のひとつです。また、うまみ成分でもあるアミノ酸のアスパラギン酸を含みます。このアスパラギン酸はア

スパラガスから発見されたものです。アスパラガスの栽培は、実生苗を定植してから収穫できるまで2〜3年をかけて株を養成します。春のみ収穫する場合は、収穫しすぎないようにし、夏以降は茎葉を繁茂させ、次のために根に養分を蓄積させます。これを繰り返すことによって、ひとつの株で10年以上収穫することもできます。また、アスパラガスは雌雄異株であり、雌株に比べて雄株の勢いが強く収穫量も多いのですが、苗の外見では見分けられないので、花が咲くまで待つ必要があります。アスパラガスは年間を通して流通していますが、5月、6月に比較的多く出回ります。まさに、今が旬の野菜です。（文責：熊崎 忠）

